

第9回世界歯内療法会議報告  
 併催 第34回日本歯内療法学会学術大会  
 第11回日韓合同歯内療法学会学術大会

海老原 新

第9回世界歯内療法会議組織委員会・総務部会幹事

須田 英明

同・委員長

会 期：2013年5月23日（木）～26日（日）

会 場：東京国際フォーラム

メインテーマ：Shaping the Future of Endodontics

大会長：須田英明

学術部会長：石井信之

組織委員会事務局長：池田英治

第9回世界歯内療法会議は、第34回日本歯内療法学会学術大会および第11回日韓合同歯内療法学会学術大会の併催により、2013年5月23日～26日の4日間（本大会は3日間）、五月晴れの好天に恵まれた東京国際フォーラムにて開催された（図1）。同大会は文部科学省、厚生労働省、日本学術会議、日本歯科医師会、東京都歯科医師会、日本歯科医学会、日本歯学系学会協議会、日本歯科保存学会、日本歯周病学会からの後援、東京都、東京観光財団からの協力を受け行われた。世界歯内療法会議は国際歯内療法連盟（IFEA：International Federation of Endodontic Association）が3年ごとに開催しており、2007年のバンクーバー大会で日本が開催国として決定され、準備を重ねてきたものである。アジア地域では初の開催であり、JEAの長年の同大会開催への活動が実を結んだものであった。JEA会員の先生方には会費として2010年から2012年の3年間にわたり、年会費を毎年5000円ずつ上乘せすることでご協力いただいていた。また、赤峰昭文JEA会長をはじめ、役員の方には国際学会実行委員として約3年間で計34回に及ぶ会合にご出席いただき、大会を成功させるためにご努力いただいた。まず、これらの物心両面にわたるJEA会員の諸先生方のご協力に深甚なる感謝の意を表す。

大会の成否は参加者数である。本大会では48カ国からの参加を得ることができ、国内1,000名以上、海外500名以上が参加した。この参加者数は予想を大き

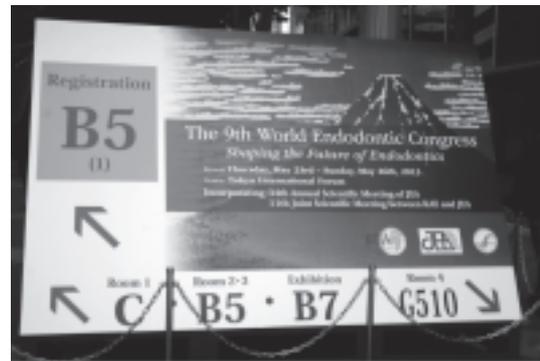


図1 東京国際フォーラム1階の看板

く上回るものであった。このうち、JEA会員の参加者数は700名強であった。これは田口正博先生をリーダーとする登録部会の奮闘によるところが大きい。また、JEA会員を中心とした多額の寄付金が大会運営に寄与したことに、この書面をお借りして感謝の意を表したい。さらに、協賛各企業にも御礼申し上げる。財政面では五十嵐勝先生を中心とした財務・業者展示部会、広報は興地隆史先生を中心とした広報・出版部会が大会運営に大きく貢献した。

大会は23日（木）のプレコンgressコースからスタートを切った。講演コースおよび実習を組み合わせた7コースが開催され、約200名が参加した。どのコースも活気に満ちていた（図2, 3）。午後5時30分からはウェルカムレセプションが行われた。多くの学会ではちょっとした料理と少しの飲み物が供されるが、本大会では豊富なメニューと飲み物が用意されており、日本のホスピタリティを示すことができた。多くの参加者が楽しく会話に華を咲かせ盛り上がり、大会の成功を予感させるものとなった（図4, 5）。

本大会は24日（金）の午前8時45分からの開会式



図 2 プレングレスコースでの講演



図 5 Friedman 先生, 石井信之先生と談笑



図 3 プレングレスコース実習風景



図 6 大会初日朝 続々と参加者が会場へと向かう



図 4 ウェルカムレセプションでの談笑



図 7 開会式 (参加国の国旗一覧)

に始まった (図 6~9)。開会式に続いてテキサス大学サンアントニオ校教授であり、Journal of Endodontics の Editor である K. Hargreaves 先生の基調講演が行われた (図 10)。大きな第 1 会場の 1 階席はすぐに満席となり、参加者を 2, 3 階席へと誘導するという盛況ぶりであった。その後 3 日間にわたり大会は 4 会場に分かれて講演が行われた。特に初日は、午後 8 時まで講演が続くというハードスケジュールながら充実した内容で進行した。本大会は世界歯内療法会議がメイン

として開催されたため、公式言語は英語で行われた。基調講演、特別講演、シンポジウム、各国代表者講演には国内の参加者のために同時通訳が行われた。総演題数は 333 題であり、石井信之先生を部会長とする学術部会により作製されたプログラムで円滑に進行がなされた。一般講演として、フリーレクチャー、オーラルプレゼンテーション、ポスタープレゼンテーション (図 11)、そして JEA 会員が得意とするクリニカルケースプレゼンテーション (図 12)、テーブルクリニッ



図 8 開会式



図 11 ポスタープレゼンテーション風景



図 9 開会挨拶



図 12 クリニカルケースプレゼンテーション風景

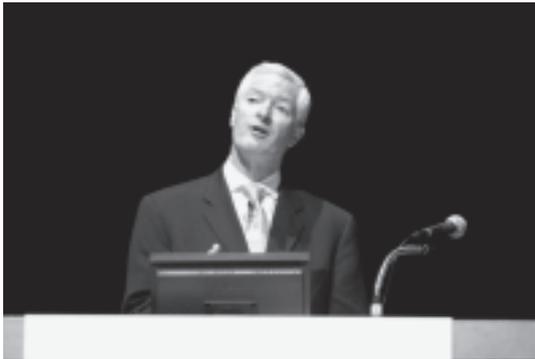


図 10 Hargreaves 先生による基調講演



図 13 テーブルクリニック

ク(図13)が行われ、会場は大いに盛り上がった。また、ランチレクチャーも3コース設定され、会期中はエンド漬けといってもいい状態であった。また、東京都、東京観光財団の協力を得て、海外からの参加者のために無料ツアーや文化プログラムも行われた(図14)。

本大会2日目の25日(土)夜に八芳園にてガラディナーが華やかに開催された。市村賢二先生を部会長と

した総務部会員のご尽力に負うところが大きい。会場の大きさの関係で定員が200名と限定され、事前登録の段階で満席となってしまった。多数の出席希望の要望がなされたが、希望に沿うことができなかったことをお詫びしたい。まず、外国からの参加者に日本庭園で食前酒を楽しんでいただいた(図15)。その後、江藤一洋日本歯科医学会会長をはじめ来賓挨拶等の後に、樽酒の鏡割りでパーティーは幕をあげた(図16)。



図 14 文化プログラム 華道



図 15 ガラディナー前の日本庭園での談笑



図 16 ガラディナーでの鏡割り



図 17 ガラディナー風景



図 18 JEA 総会



図 19 各国代表講演 日本代表 石井信之先生



図 20 閉会式における赤峰昭文 JEA 会長からの感謝状贈呈

途中、日本舞踊、和太鼓演奏などのアトラクションもあり、美味しい料理とお酒に舌鼓を打ちつつ、盛り上がりを見せ瞬く間にお開きとなった（図 17）。

本大会最終日の 26 日（日）早朝より JEA 総会が開催された（図 18）、午後には石井信之先生が日本代表として各国代表講演を行った（図 19）、そして、スケジュールは滞りなく進行し、午後 5 時、わが国初の歯内療法の世界大会は大成功とともに閉会式を行った



図 21 JEA エンブレムの引き継ぎ



図 22 国際学会実行委員会の記念写真

(図 20). 閉会式では JEA エンブレムが第 35 回日本歯内療法学会学術大会大会長となる新潟大学興地隆史教授に引き継がれ (図 21), 4 日間の 3 学術学会併催大会に幕を閉じた (図 22).

なお, 2016 年の第 10 回世界歯内療法会議は南アフリカ共和国ケープタウンにて開催される予定である. 本大会でも同国がブースを設置し, 開催案内を行って

いた. さらに本大会期間中, IFEA 総会にて 2019 年第 11 回大会はインド共和国にて開催されることが決定した.

稿を結ぶにあたり, 本大会の成功は JEA 会員の皆様の全面的なご支援ご協力によるものであり, さらに関係各位に対し, 重ねて感謝申し上げます.